

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 みずき)

事業所番号	0670101591		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム 友結		
所在地	山形市桜田西1丁目13-9		
自己評価作成日	平成 21年 10月 1日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が、「ここにもいいな」と思って頂けるように、ご利用者様同士、職員が擬似家族になれるように、お一人おひとりの認知症状に合わせて、出来ること、出来ないこと、分ること分らないことを見極めながら寄り添い、その方が生き生きと笑って生活して頂けるように自立支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/vamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 22年 2月 5日	評価結果決定日	平成 22年 2月 24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を目標に、独自の理念を作り、日々のサービスの中で「笑顔でいてほしい」と利用者一人ひとりにきめ細やかな関わりを大事とし、「将来、自分が利用者になったら、ここに戻って来たい」と職員を育てる温かい思いを自己啓蒙に繋げ、サービスの質の向上を図りながら、チームで支えていくことを大切にしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である「住み慣れた地域の中で、ご家族・ご本人をよるこびと感動で結びつけ、最後までその人らしく生き生きと暮らしていただきます。」をユニット玄関や職員の目に付くところに掲示し、常に意識できるようにしている。	職員全員で作りあげた理念の他、各ユニット毎、月の目標を掲げ、こやまケア行動指針に繋げ「法人内どこに行っても同じケアを受けることが出来る」と、同じ目標を持ち理念を浸透、意識を高めながら日々のサービスに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自事業所で開催する介護教室で、認知症についてや転倒防止の体操を紹介し、地域の方と一緒に体操等をおこない、介護予防に取り組んでいる。また、地域の活動(お祭り、掃除、草取りなど)への参加を行い、地域の一員として交流を図っている。	介護教室を継続的に開催し、参加者の交流の場として楽しみの一つとなっている。舞踊等のボランティアの受け入れや地区行事の盆踊り大会の構建で、お神輿、事業所主催の夏祭りには近隣の子ども達の参加や地域の小学校のグリーン作戦での来所と子供達とのふれあひも多く、日常的に交流を図る努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回介護教室を開催し、その中で認知症についての勉強会も行っている。また、短期大学の実習の受け入れを行い、認知症介護の実践を通し、地域に発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催と常に会議での意見をいただき、対応を行っている。会議で話しあわれた内容について行政、ご家族に報告し、さらに意見を頂けるように取り組んでいる。	会議は事業所の報告等や質疑応答、身近な話題等に話が弾みながら定期的で開催されている。会議を通し事業所が地域の一員として声をかけていただく場面も多くなり、双方向的な会議になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市との連絡を行い、広報誌や現状の報告を行っている。また、骨折などの事故報告は、すぐに提出し、行政からの指導をしていただき、再発防止に努めている。	会議の報告や広報誌を持参しながら定期的な訪問や、相談等のある場合は随時連携を図っている。介護相談員の受け入れを行ない、顔馴染みとなりアドバイスをもらい、サービスの向上に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、特に、センター方式のアセスメントをしっかり行い、職員一人ひとりが理解をし、担当者会議でケア方針を決定しご家族の協力のもと、身体拘束をしないケアを行っている。また、夜間以外は開錠し、職員の見守りにて対応している。	事業所内で勉強会や話し合いを持ち、職員は身体拘束の弊害を認識し共有を図っている。日中、玄関は解錠し「生き生きと過ごせるよう」見守りを重視した支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を行い、知識の共有している。また、虐待をしていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の時間に勉強会を行って、活用できるように情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を基に事業所の説明を充分に行い、理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、苦情相談窓口を設置している旨を説明している。また、玄関先にご意見箱の設置や年2回アンケートを実施し、苦情に対しては誠意をもって対応している。	玄関入口には「お客様アンケート」を常に置き、面会時や来所時に記入出来るようにし、年2回のアンケートは集計し結果を出し、改善点については話し合いをしている。家族交流会を行ない、日頃より家族等から意見や要望等を聞く機会を設けている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などでの意見交換、定期的に面談を実施することで、発言しやすい環境作りに配慮し、運営に反映できるように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を導入し、具体的数字で評価することによって、職員が納得できるように努力している。また、毎年人事考課を実施し、一人ひとりの実績の把握をし評価している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には、積極的に参加している。	グループホーム協議会(県・市)主催の研修会等の参加や、法人内GH協議会の新人・中堅等の段階別研修会を行なっている。新人職員にはプリセプターシップを導入し、職員一人ひとりの実践評価の確認等、日常の中で職員のスキルアップを意識した現場での研修を行ない、チームとして互いに育ち合えるよう研鑽している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市・県グループホーム連絡会の会議や交換研修などに参加し、意見交換することで、お互いにサービスの質の向上に繋がれるように取り組んでいる。	県、市グループホーム連絡協議会の会議等参加の他、法人内GH協議会の会議会場を輪番制に持ち回り、情報交換や確認項目等を定め、互いに評価し合う等切磋琢磨しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に訪問させていただき、ご本人の困っていることや不安なこと、要望などを聞き、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に訪問させていただき、ご家族の困っていることや不安なこと、要望などを、聞き受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に担当者会議を開催し、ご家族やご本人の希望を受け止め、サービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご利用者様の意思の決定、尊重し、ご利用者様の生活ペースでの生活を行い、生活を共にしている関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時や近況報告の連絡、面会時にはゆっくりとくつろげる空間作りに配慮している。また、定期的に家族交流会を開催し、喜怒哀楽を共有できるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の方との交流、行きつけの場所へ個別で外出援助することで、関係が途切れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内外でのレクリエーション以外でも、日常生活(食事、お茶の時間)でも、関わり合えるよう、職員が間に入り、話題提供を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、ご本人、ご家族への相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し、生活歴や職歴を把握し、お一人おひとりに合ったサービスを提供できるように支援している。また、介護計画の変更時にはご本人、ご家族の意向を伺い、反映させ、思いを汲み取っている。	日頃の言葉や表情、サイン等の生活の様子を見逃さないように、職員は統一したケアが出来るよう声掛けを大切にしながら、一人ひとりの生活支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャーなどから情報を収集し、センター方式のアセスメントを活用し、入居されるまでの生活力が継続できるように配慮し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用し、サービス担当者会議にてお一人おひとりに合った過ごし方や残存機能の活かし方など細かく把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを活用し、サービス担当者会議でお一人おひとりに合ったケアのあり方をサービス内容に落とし込んでいる。また、月1回のモニタリングで状態変化や入退院があったなど、状態に合わせて介護計画を作成、変更を行っている。	受け持ち担当職員が利用者や家族等の思いや意見を聞きながら「24時間アセスメント」を作成し、チーム制での意見交換や全職員での話し合い等を行なっている。現状を維持する目標ではなく、進行の予防を意識した一人ひとりの介護計画に職員全員が関わりながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録と特記事項を記録し、その後の経過も記録している。また、情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生ボランティアの受け入れを行い、交流を図っている。また、地区行事、市立図書館への外出等の支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関等と相談し、ご本人、ご家族様の意向を伺いながら、適切な医療機関の受診が出来るように支援している。	協力医療機関等への受診は、日々の生活様子を把握している職員が通院介助している。受診結果は家族等には電話連絡し、職員は通院記録簿にて共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携により、健康管理を行っている。また、兼務の看護師が週1回健康チェックを実施し、ご利用者様の状態を報告、適切な対応ができるように情報共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、看護師との連携を図り、医師のモニテラの同席やご家族との情報共有を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明を、ご家族の意向を伺っている。また、状態に合わせて協力医療機関、看護師と連携を取り、チームで支援に取り組んでいる。	重度化や看取り介護に関する指針を掲げている。家族等の思いを重視し、関係者全体の連携を図り、職員全員で関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、いざという時慌てない様に訓練している。また、年1回救急心肺蘇生法の講習会を実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、近隣住民に呼びかけている。	避難訓練は消防署の協力を得て、年2回昼夜を想定し実施している。非常用として、ユニット毎に備蓄(水、乾パン、防災グッズ他)を備え、職員と利用者による実践的な取り組みを行なっている。地域住民には回覧板等で呼びかけはしているが、一緒に訓練にはまだ至っていない。	各行事等で地域住民との交流は図っているが、特に災害時は近隣住民の協力が不可欠である。日頃より訓練や災害時対策等の話し合いを一緒に行ない、理解を深め、協力体制を築いていくことを期待したい	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対しては全職員が、常に敬語で、対応している。また、職員のケアの評価表を活用し、自己のケアの振り返り「こまやかな気配り、やさしい笑顔、まごころ込めたおつき合い」を実践している。	人生の先輩として敬意を払い、常に敬語で対応し、「自分がされて嫌な事は人にしない」を職員全員が意識し、プライバシーを損ねないよう配慮しながら関わりを持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、希望を伺い、常に自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切に、ご利用者様の希望に沿えるように、意見を尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時はもちろん、定期的に美容室、理容室へ行けるように支援している。また、希望があれば、職員が白髪染を行い、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、献立に取り入れている。また、調理を一緒に行い、教えていただくことでやりがいや生きがいに繋がっている。準備や片づけも役割として定着している。	毎月一人ひとりの「嗜好調査」を参考にメニューを考えている。利用者と一緒に食事の準備や調理、盛り付け、配膳・下膳等を行ない、馴染みのある茶碗、箸等を使用し、職員も同じテーブルを囲み楽しくゆっくり食事が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事が出来るようにカロリー計算を行い、摂取カロリー、水分量を記録に残すことで、お一人おひとりに合わせて食事量の調節を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔の清潔保持ができるように声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを把握し、状態に合わせて、下着の種類やリハビリパンツ、パットの使用し、時間や声掛けの工夫を行い、適切な排泄が支援できるようにしている。	利用者の排泄パターンはバイタル測定等と一緒に一見で分かるようにグラフに表わし、日々の健康状態の気づき等に繋げている。オムツの使用を減らし、見守りを重視したトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排泄パターンを把握し食物繊維や乳製品を食事の中に取り入れ、また、日々の活動や運動を促すことで個々に応じての工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	事前に希望の時間を伺い、出来るだけ入りたい時間に入れるように支援している。	入浴前はバイタル測定をし、一人ひとりの希望に添う入浴となっている。仲の良い者同士一緒の入浴や入浴剤で変化をつけたり、近くの温泉にも出掛ける等入浴を楽しみなものになっている。入浴を拒む人には声掛けやタイミングを考え、状況に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中活動的に過ごしていたり、日中でも午睡の提供などお一人おひとりのペースに合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに基づいて、薬の目的や副作用、用法や用量について把握し、適切な服薬介助が出来るように情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活介護表を作成し、ご利用者様の生活歴を把握し、趣味や得意な活動ができるように提供し、張り合いや喜びに繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々希望に沿って戸外に出られるように支援し、また、日常や外出の機会に希望を伺う他に、事前に共同生活介護表に取り入れ、計画的にご家族や馴染みの方との外出や外食ができるように支援している。	季節や天候の状況に応じて、近くの公園や喫茶店、花見、植木市、花笠踊り等、利用者の体力や希望に合わせた外出支援を行なっている。出掛けた様子等を写真に残し家族等にはお便り等で知らせている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの了承を得て、小遣い程度の現金を持参していらっしゃる方もいる。買い物援助の際は支払いを任せ、現金を扱えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望時や定期的にご家族と電話で話ができるように支援しています。また、季節毎のはがきや手紙を定期的に自筆で書いていただき、近況報告が行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に清潔にし、季節の花や手作りの手芸作品、製作品を展示し、また、テレビの音や話し声が不快にならないように配慮し、居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	ホールは光が差し込み、明るく、広く、清潔な生活感が漂い、入り口には職員の顔写真があり、家族等より顔が見えて喜ばれている。手作りの刺し子や習字等が掲示され、利用者が集う和やかな共用空間には加湿器を置き乾燥防止に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、ダイニングのテーブルや椅子、和室、ソファでの空間で仲の良い方々や、お一人で過ごせるような空間作りの工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具やご家族の写真など馴染みの物を持ってきていただき、ご本人が居心地の良い生活が出来るように工夫している。	居室の入り口には利用者が自筆で名前を書き、好みの写真と一緒に貼り、分かりやすくなっている。好きなようにベット等の配置変えをしたり気分転換を図る等、安心して過ごせるよう温かい雰囲気而努力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の出来る・出来ないシートや分かる・分からないシートを活用し、一人ひとりの状態に合わせて、安全に自立した生活ができるように支援している。		